



日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

北前船が栄えた時代、直江津は「今町」と呼ばれ、高田藩の外港である今町の港には北前船が寄港しました。北前船が寄港したことによってさまざまな生業が生まれ、直江津のまちは大いににぎわいました。

詳しくは



藍商人からあつく信仰された住吉神社

住吉神社（住吉町）は、航海安全の神を祀る大坂の住吉神社から分霊された神社です。当初は八坂神社境内に祀られていましたが、天明8年（1788年）に現在地付近へ遷座され、大坂や阿波国（現在の徳島県）の藍商人たちからあつく信仰されました。

境内には、阿波藍を運ぶ北前船の航海安全と繁栄を祈願し阿波国の藍商人が奉納した石灯籠のほか、大坂の阿波藍染屋が奉納した手水鉢が残っています。



住吉神社（住吉町）



阿波国の藍商人が奉納した灯籠には、奉納者「手塚六三郎」の名前が刻まれています。



大坂の阿波藍染屋中が寄進した手水鉢

住吉神社に奉納された船絵馬

北前船寄港地・直江津の寺社には、北前船の船主や船頭たちが航海の安全を祈願し、あるいは航海の無事を感謝して「船絵馬」が奉納されています。

住吉神社の船絵馬は、明治22年（1889年）に直江津町の船主・橋本トラ子（えん まとう）が奉納したものです。この絵馬は明治から大正にかけて活躍した大坂の絵馬師・絵馬藤が描いたもので、全国各地で見ることができます。



住吉神社の船絵馬「久徳丸」

広報対話課から

☎025-526-5111

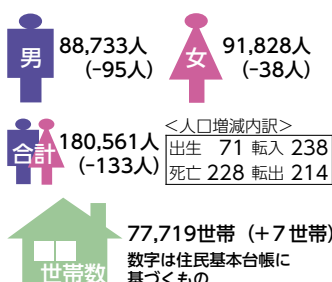
「広報上越2月号」は、1月23日㊥・24日㊦に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市ホームページアドレス <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>

♻️70（古紙パルプ配合率70%再生紙を使用）

上越市の人口・世帯数

令和6.12.1現在。（ ）は前月との比較



表紙のことは：節目の一年が始まります

2025年は、これまで大切に守り伝えられてきた上越市のさまざまな歴史や文化がそろって「節目」を迎えます。「節目」は物事の区切りを表すほか、重要な局面や転期を表す言葉としても使われます。皆さんにとっても新しい1年が、素晴らしい出会いや大きなチャンスなど喜ばしい転期が多く訪れる1年となりますように。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。